

Cloud Run



特長

- **コンテナをデプロイするだけで** 外部から到達可能な **URL が発行**される
- 0 ~ N へトラフィックに応じて **高速にスケーリング**
- **イベント駆動**で処理を実行
- HTTP/2, WebSocket, gRPC への対応
- **高度なトラフィック管理**が統合

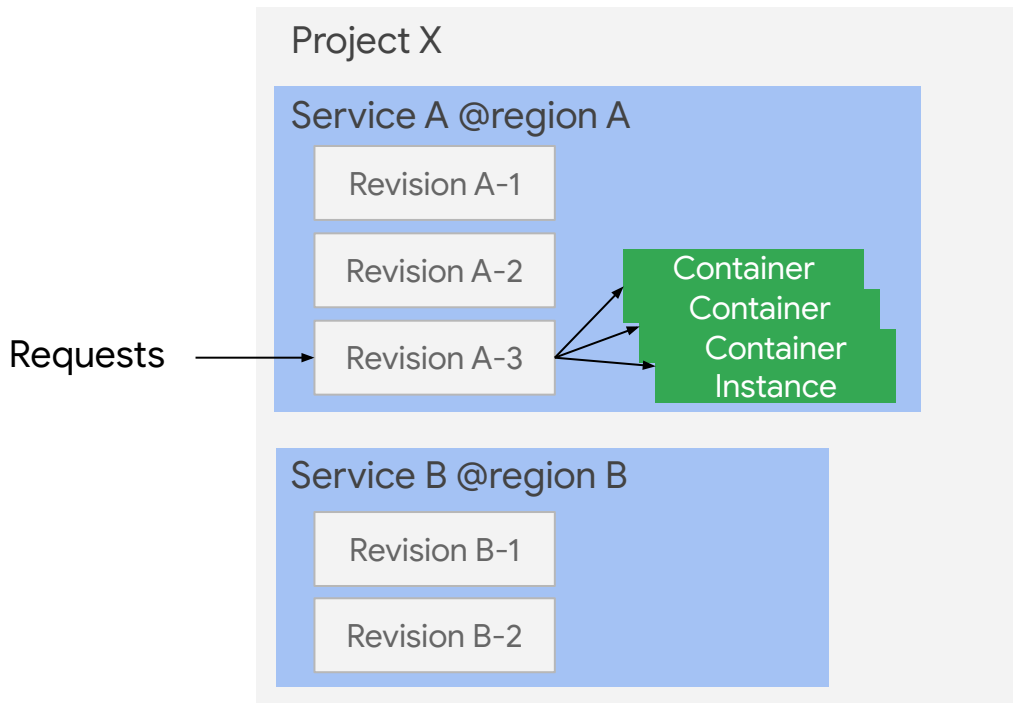
サイドカー コンテナのサポート **Preview**

- インメモリの共有ボリューム
- コンテナ単位のヘルスチェック
- スタートアップの順序制約

Cloud Run Jobs

- HTTP リクエストに依らない実行
- 分散タスクの実行で、より長時間の実行が可能
- 明示的な並列処理や、リトライ回数を定義

Cloud Run サービスのリソースモデル



Service

Cloud Run の主リソース

Service 毎に Endpoint を提供
自動で設定される a.run.app ドメイン、
もしくはカスタムドメインが選択可能

Revision

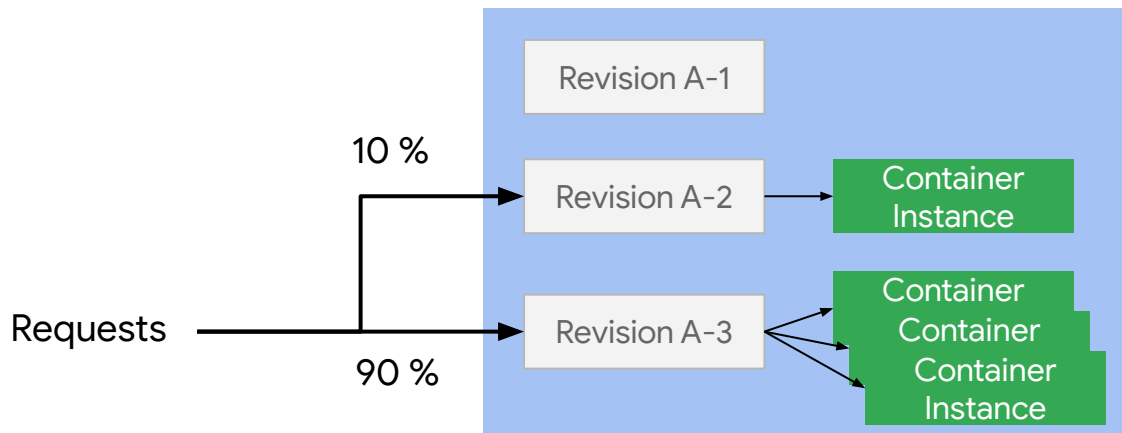
デプロイするごとに生成される
コンテナ イメージとデプロイ時に指定される
環境変数やパラメーターから構成される

Container Instance

実際にリクエストを受けるコンテナ、
リクエスト の数に応じて自動的にスケール

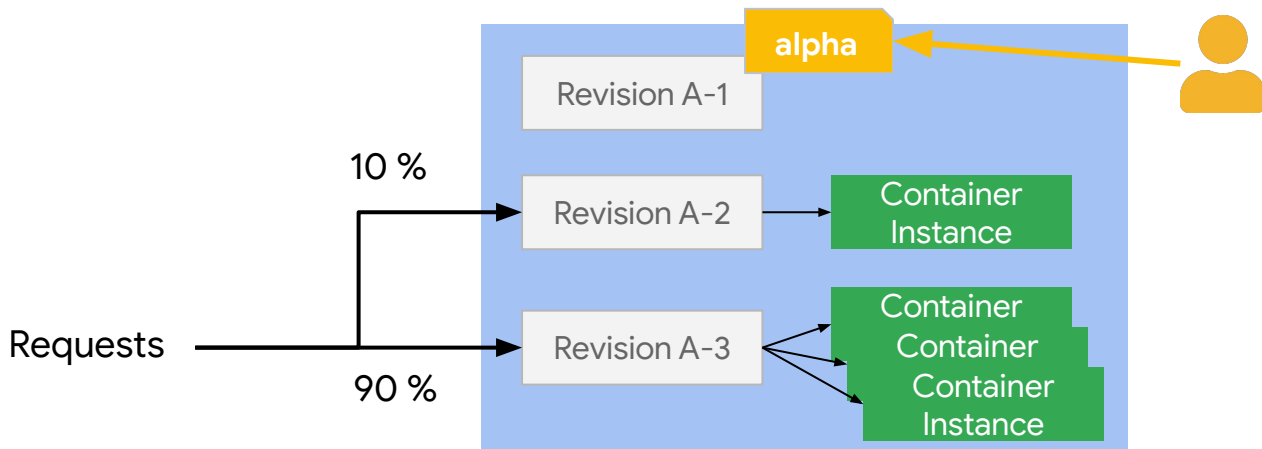
トラフィックを制御する

Update traffic 機能を使うことで、Blue / Green Deployment や Canary release、ロールバックなどが簡単に可能に



タグをつけて、専用の URL を発行する

リビジョンにタグをつけることで、リビジョン毎に専用の URL を発行可能
トラフィック 0 % でも専用 URL にアクセス可能なため、開発・テスト環境としても有用



プルリク投げて確認する全体フロー

